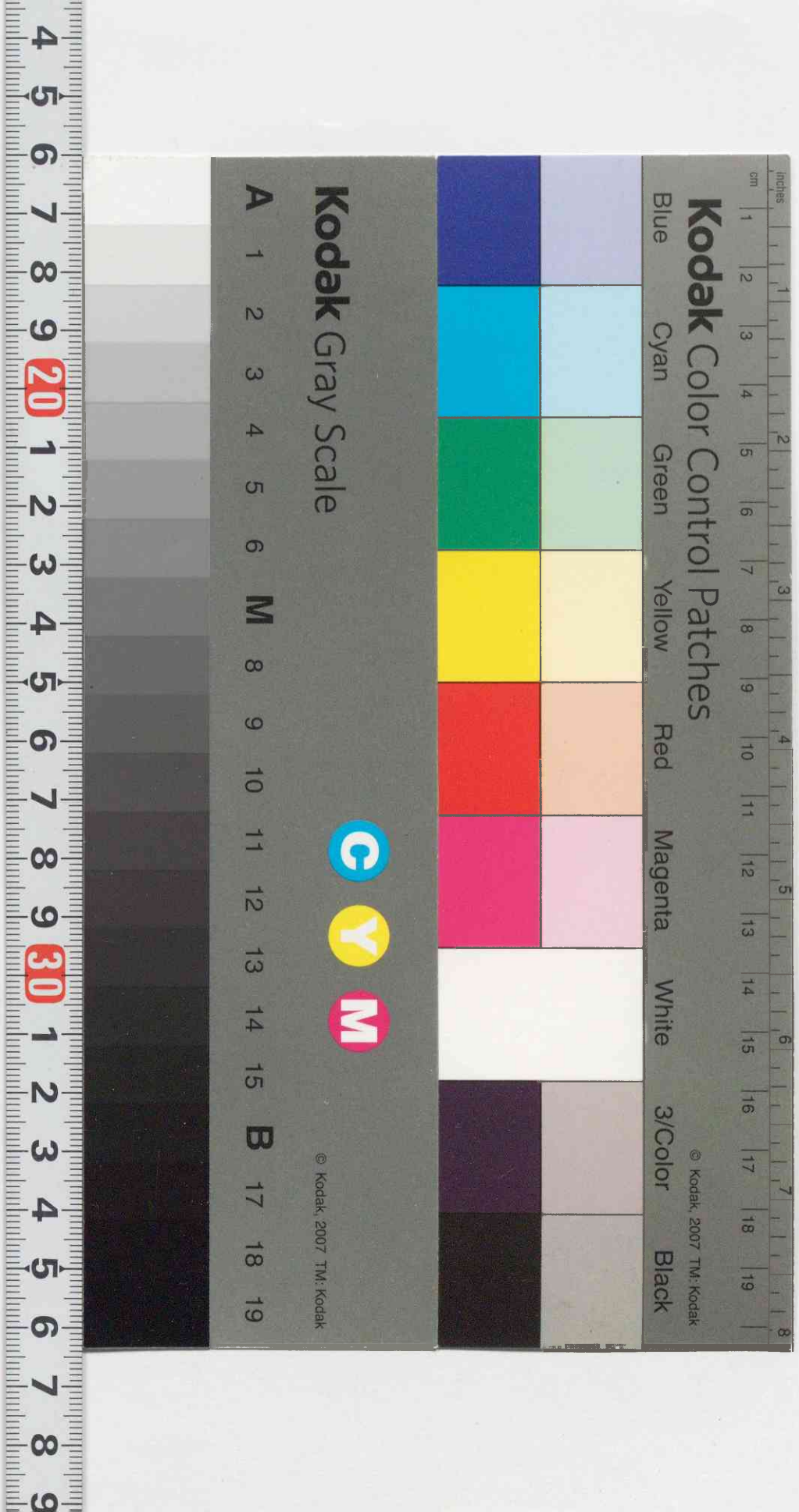




南總里見八犬傳第四輯卷之四

東都 曲亭主人編次

第二十七回 病客藥を癖しと齡を延ぶ
俠者身成殺して仁を傳ふ

房ハ仲々完介とち笑ミ物識る人ハ常ハ積善の家餘慶あり金言宜小
故ある大塚生ハ父祖三世忠信孝義傳稀あるその癖の越ハ船中にてみづ
いのをこき竊聞しと詳知するやまばりその妻の不慮ハ命を預ける
鮮血ヲ自然と彼人の藥よるも天の冥福ガ過失もかくそ聊面を起す
似れ夫婦の恩愛今更ハ心のうらまへ千萬言も足らず不覺ハ時を
殺さんといふ鮮血を取る人一刀ぬき死すとも全體ハやがて冷むを温熱
失ふといふと絞るも血を獲んやといふをせし小文吾この誤ハ後ふ。や

踏所^{ふところ}。且^{かつ}ふもあらず。房八^{ふやち}と沼^{ぬい}蘭^{らん}がほろろ身^みを投^なぐけく。哽^{むせ}かり泣^な沈^{しづめ}まへ。
且^{かつ}くく目^めを拭^{ぬぐ}ひ喃^{なん}房八^{ふやち}豫^{よろこ}その歎^{かな}えのやましく。かきぬ旅^{りょ}の伴^{ばん}侶^{りょ}ぬ想^{おも}さへ
孫^{まご}さへ放^{はな}遣^つるころ方^{ほう}ひとをいのめく。羽^う幸^{さい}より又^{また}誰^{たれ}を友^{とも}誰^{たれ}をよぶふ慰^{なぐさ}ん子^こを
先^{せん}ぞく幸^{さい}あらぬの。あまといほる世^よの例^{れい}ふもあらず入^いらん悲^{かな}しさよ寝^ねてまぬ
宿^{やど}小^{しょう}獨^{ひとり}不^ふ樂^{らく}く。苦^{くる}らばこの夜^よを曉^{あけ}さんより切^{切れ}くあん力^{りき}の勇^{ゆう}に最^{さい}期^きを看^み
者^{もの}べやく。穴^{ひま}竊^{しかく}宿^{しゆく}を起^おゆくと又^{また}この檐^{のきざ}下^{した}ふすけまどとてもかくても存^{ぞん}命^{めい}ぬ
コガ子^こと知^しらず迹^{あと}追^おふく。哭^{なき}ふまると叱^ちらまへ最^{さい}期^きの越^こえ彼^{かれ}ののまへ
る穴^{こうちきく}竊^{しかく}ゆ逢^あふと返^{かへ}さんとあそども足^{あし}の進^{すす}まれぬ戸^{かど}口^{くち}ふ力を
倚^よけく立^{たち}日^ひゆとこそ祢^な夏^げ虫^{むし}のひより焦^こましく又^{また}濡^ぬれと檐^{のた}の玉^{たま}水^{みづ}これふ
あゝ涙^{なみだ}の外^{ほか}あるまればかうもどりと知るるるか沼^{ぬい}蘭^{らん}を送^{おく}てかへせず大^{だい}八^{はち}を
是^こ隸^{れい}たる来^{きた}たり嶋^{しま}の羽^う撥^{はく}三百^{ひゃく}羽^う撥^{はく}れたれ口^{くち}説^{せつ}ともあつ盡^{つく}ぬこと這^{このち}悔^{かい}とか

小女ひくろく犬田母。父の憾のつらん後の歎死を今宵ぞ知る。
 ありともと欽喃か沼蘭吾侪に豫て事情を知らるゝんや。告さるゝ成公。
 つゝと恨まん惜しや利鎌の嫺草の霜小先。幸あるあゝ。さふめても大分。
 最期ハ持小憾。子孫に。祖母もぞねいりま。と亡骸を抱死とま。
 揺動く。又哽くる千行の涙。岩走る瀧のいとせめく。碎る四月の苦。成公。
 此もまた歎死せり。沼蘭ハ有繫は姑嬢の声ハ受けを哀傷と深瘼。息を。
 吻む。房ハも其伴ふ弱る心を励し。母は。このまうち歎死く。病日ぐ。
 多る。父の送訓を果さん。身と殺せ。母ハ孝もむ。子ハ又不慈の行。
 あま。一个ハ是なり。而ハ非之孝道。寔ハ難多。便り。さ。死母の。頼む。
 門馬大田。歎死。愁ふ。頭身の息。程。を。苦惱。け。と。この布を解て。と。
 小文吾ハ慰め。嘆息。と。誤く。妹夫を。又誤て。妹を。

死を憐み。今生めく交る日の久くを成歎たり。又いふ。某をさす。和殿夫婦の恵より。難治の金瘡愈ふとも。和殿夫婦を生さ。死良茶
るた。そ恨ると。これ幸めく。難を脱と志を得る。とわぶ。この衣を添ふ。
鮮血を。後までも。和殿。その恩徳を子孫に傳へ。親の送別を守り。々。
ゆふ。怨を解け。ば。死でも。事の済む。可。惜。義勇の丈夫の。その。方の。ま。め。
妻をも。子をも。殺さ。天道。暗ふ。似。ず。嗚呼。あ。い。ぢ。も。命。と。い。ふ。ん。歎。且。母。
御毒の。いと。賢。内室の。いと。貞。その。子。も。成長。る。忠。孝。義。勇。親。は。片。と。
世の。馬。傑。を。た。た。か。う。と。惜。と。加。旗。大田。親子。も。亦。是。忠。信。孝。
義。の。人。なり。斯。良。吉。の。人。の。縁。を。結。ぶ。義。不。伏。さ。る。彼。枉。津。日。の。神。受。秋。家。の。
艱。難。ふ。事。事。繋。ぐ。船。め。死。救。と。い。ふ。ゆ。え。と。い。ふ。今。又。難。
治。の。病。著。不。思。義。不。愈。も。救。ひ。る。を。経。を。補。ふ。苦。搜。を。吊。ふ。追。薦。回。向。を。

法師の。所。為。人。と。何。成。の。と。よ。の。恩。義。不。剛。べ。や。と。感。嘆。の。涙。を。泣。ぐ。露。の。玉。
清。心。を。あ。い。ま。う。小。文。吾。も。妙。真。も。人。の。誠。の。憑。く。と。理。り。と。あ。ふ。の。と。尉。め。
子。秘。心。嘆。の。外。小。辞。は。る。ま。け。り。そ。中。小。房。ハ。絶。え。ん。と。い。ふ。氣。を。引。起。し。
歡。い。ば。信。と。い。ふ。君子。も。る。大。塚。ゆ。信。あり。義。あり。賞。美。の。言。の。兼。善。
知識。の。引。導。も。千。萬。僧。の。説。法。も。と。い。ふ。あ。い。ま。と。あ。い。ま。和。君。の。難。瘡。本。復。
を。進。退。更。不。自。在。と。い。ふ。か。い。ま。と。い。ふ。頭。め。と。い。ふ。彼。帆。大。夫。小。を。欺。え。
水。陸。の。守。兵。を。退。け。後。中。和。君。と。落。し。と。い。ふ。あ。い。ま。の。公。羽。の。縲。纆。を。解。せん。め。錯。
この。む。大田。殿。と。い。ふ。頭。を。と。い。ふ。と。い。ふ。小。文。吾。頻。に。嗟。嘆。と。い。ふ。そ。の。早。う。山。林。
數。刺。深。瘡。小。屈。せ。り。今。ま。でも。お。め。め。と。い。ふ。勇。悍。和。殿。の。如。く。と。い。ふ。推。う。く。
か。く。あ。い。ま。と。い。ふ。瘡。の。灸。所。不。係。り。縦。名。醫。の。門。小。う。と。も。存。命。べ。く。も。あ。い。ま。
れ。と。亦。その。意。不。復。と。い。ふ。と。い。ふ。影。護。が。と。い。ふ。已。と。い。ふ。成。治。と。い。ふ。今。實。と。い。ふ。



陽信交妙
も乃の薬
圓食の

ハハ車四軒巻四

ハハ車四軒巻四

せ。彼修驗者念玉の渠ハ別室小なり。甲夜過つたすハ尺八を吹遊る。その
後ハ日もせし渠熟睡し一毫も緯の中を知りし許さ。今この世の人心
中ハ刀を隠せばこそ只彼らの仇のふくどひて四目八臂のあつさ。ど
その痛くも寐さや。ええ暇あつたまづその臥房を窺ひたり。訝しむ
あつた禍の根をぬん事ハ洩易くと成る。いふ後を防ぎハ心盡し仇
のふくんと其死告ぐ身と起せば信乃ハ何のうち点頭いりて廻り今さふ
あひ合はることをぬき某子舎小在りと別室のこ秋とおぼく密に聲
をう。只そのさうなるを嚮ふ某彼知る。障子のあつた在りとんあつ
某子ノ関心音せり。んんんと欲し小病苦甚し折る進退しぬ。何
あつた仕せと目暗る人軟弱或ハ角の野為る。欽定ハ中々とあつた
倘その修驗者さやといふ小文吾うち驚き。その念玉ハ疑ひ。且密に

謀の声せり。謀のあつたのあつた。竊ハ背門よりあつた。この條は
や洩れ。密訴せし脱れ。由大敵とさふ。鈍や大事を恨め。慚
愧後悔措りも。腰刀の鞘釘走せと古訓。怨怒の面色進む妙真
推禁め。人同類あつた。敵のヨリハ捕ま。漫ふ女をあつた。心をつ
と。房ハ氣を問あ。今般の苦痛只と。いのを。信乃ハ俱小と遠く
刃を合。身を起。小文吾小引。齊一別。室ハ外。程小出居。前
房の間。障子のあつた。人あり。あつた。声を。立ち。入。且。等。安。房
四守里見。治部大輔。義實。朝臣。創業の功臣。あり。金。碗。八郎。孝吉。が。獨。子。玉。碗
太輔。孝德。法師。大坊。同。藩。の。士。故。伏。姫。君。の。傳。あり。登。崎。十。郎。照。武。が。思。ふ
登。崎。十。郎。照。武。あり。ふ。今。對。面。疑。念。を。釋。人。且。等。と。呼。う。障
子。を。楓。と。推。ひ。並。拉。う。近。く。と。見。別。人。を。大。先。達。念。玉。ハ。幾。年。

念ふ遊山玩水の假托と十一郎共侶の還里と今宵の及ぶ。かゝるきの甲夜乃
間ふこと濱里よりかゝる呼門と云ふものあり。より背門より入るんとく
漫立違ひ。生垣の間より不圖うち抜けわ下親子の子舎ふ犬塚犬飼等と團
坐し彼玉のる窓のり。又彼額藏の莊助がるるふ噂せをせとるふ小竊のり
又窺つ年来の宿望成就の時到来る。かゝる飲ひの餓鬼うく地蔵の宝珠を
見る小勝より。かゝるその宵のり小宿とむ背門の庭より取らぬ十一郎が旅
宿のりぬく竊ふ云云のりを告謀あり。今宵又ふ小宿りを鶏が鳴く東ふ
廣た國ふも類稀なる房へが孝順義元の事の越太田親子が良吉信義及
大塚が賢よりと薄命ある。又犬飼の友の為ふ志波浦ふ越たり。ゆそとる憂
苦艱難竊ふのりなり。且感且悼る。かゝる袖ふふ濡る。をる浮世の笠
中。其れ小在る月も有繫とせ。かゝる人への人説諦に死時宜のるる。

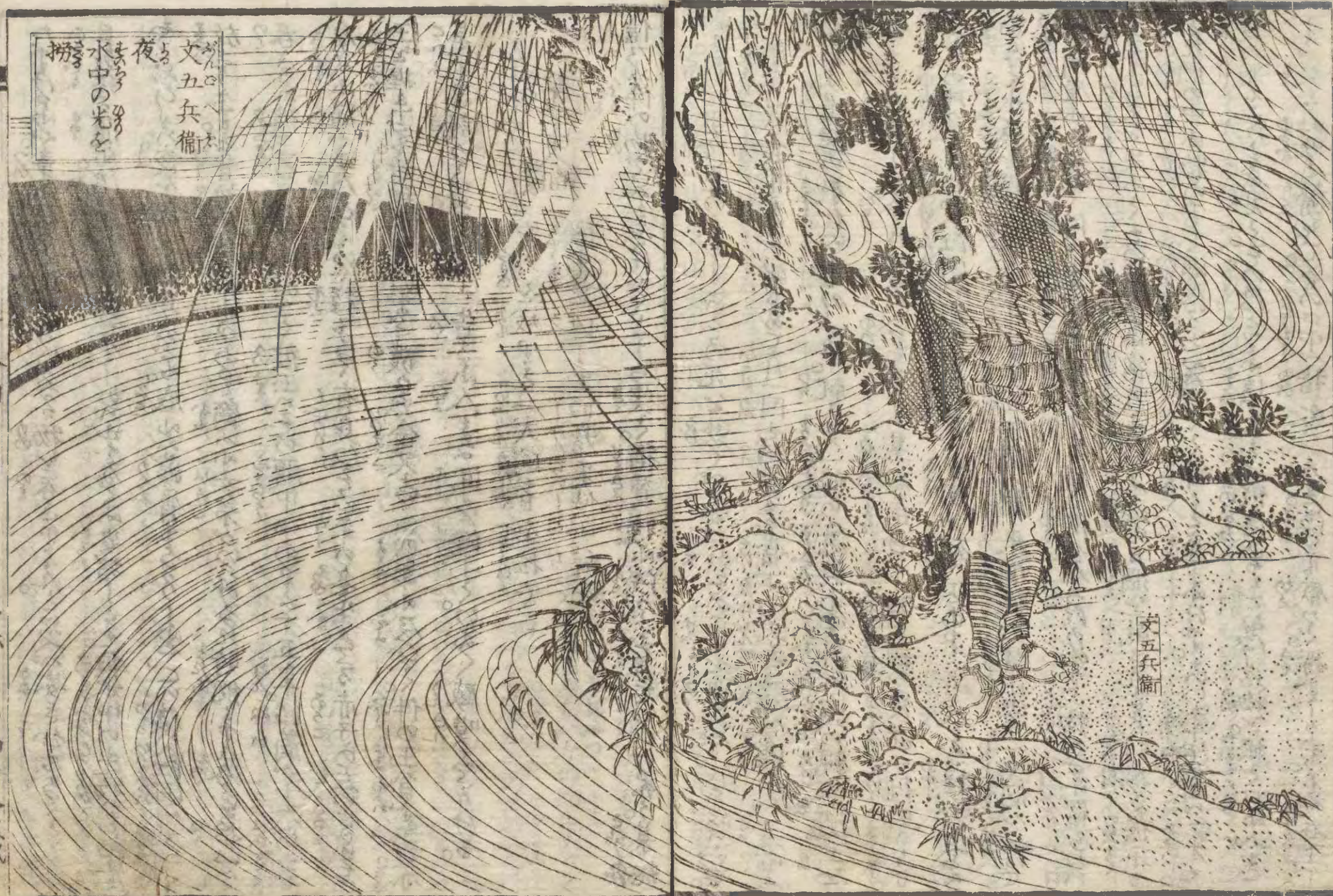
木の花の月夜の古衣舊の姿ふあり。これ昔の憂ふは捨果し世は
まゝ條の袖のり。捨ふ餘りあり。四個の義士未が不幸薄命或は一慈父一賢母
或は貞婦と小児の枉死あり。命を歎け。かゝる月へ數る。と南無阿弥
陀佛と唱へ。その既略を説示を當下登崎照文の扇を膝に推立。諸賢
者。信ふるや不口や。かゝる主君里見殿の文を右ふ。武を左ふ。當時無双の良將あり。
この故ふ仁義ふあふ。かゝる動れ多む。礼智ふあふ。かゝる紀多む。忠信ふあふ。これ
用ひ多む。孝悌ふあふ。かゝる賞ふ多む。かゝる安房上総の南嶋の裏あり。
賢を招く小普ふあふ。かゝる某主君の密談を奉り。封疆をなす英士と慕め。

且二十有二年。絶く信實を盡す。孝徳入道、大坊が存亡を訪んぬ。今茲
東八ヶ國を編歴す。もろもろ鎌倉より法師と再会の事の趣。目今、大のつれ
や。これが大と某と安と。安と云ふ。この地ふ。陽より不快なり。形と云ふ。陰より
水魚の如く影の形は。後ふ如し。さうゆ。某へ。甲夜ふ。背門より潜より。俱別室ふ
をり。大が笛を吹くと。たの。目と云ふ。出く。あつ。の。為。俸を。窺ひ。つ。れ。退。け。大。法。師。が
立ち。り。て。窺ひ。の。緯。あ。ち。も。ろ。聞。見。し。感。涙。ほ。ろ。袖。を。濡。せ。り。大。塚。大。飼。犬
田。本。既。ふ。主。家。小。宿。縁。あ。り。山。林。の。さ。る。る。も。亦。得。る。死。の。豪。傑。あり。
目。と。云。ふ。も。ろ。も。相。謀。る。大。塚。が。今。實。小。通。窮。死。を。救。ふ。へ。死。小。早。す。て。命。小。代
ら。んと。せ。す。と。へ。送。憾。し。と。主。君。里。見。願。は。り。父。李。基。朝。臣。共。侶。小。結。城。龍。城。の
折。忠。戦。の。義。ふ。り。成。氏。朝。臣。の。御。方。目。と。云。ふ。も。近。死。比。へ。詩。我。の。執。權。横。堀。史
在。村。が。好。伝。非。法。の。ゆ。え。あ。ま。り。か。の。づ。ふ。疎。遠。ゆ。て。交。す。め。の。如。く。る。す。

さ。と。大。塚。難。美。ふ。及。び。目。と。云。ふ。亦。一。臂。の。力。を。勤。く。追。ひ。の。兵。を。殺。ち。相。伴。ふ。
本。國。へ。還。る。と。す。を。あ。る。人。の。心。安。う。と。叮。嚀。小。慰。め。り。本。意。を。詳。ふ。さ。ふ。る。
食。駭。然。と。う。ち。驚。死。の。心。感。ず。る。覺。果。ぬ。夢。小。夢。見。る。心。地。せ。り。中。信。乃
こ。ん。ど。の。ゆ。え。ひ。と。大。照。文。ふ。う。ち。對。ひ。ひ。ける。死。西。君。の。本。名。未。由。を
小。丈。五。の。共。侶。小。膝。を。進。め。り。大。照。文。ふ。う。ち。對。ひ。ひ。ける。死。西。君。の。本。名。未。由。を
示。さ。す。疑。ひ。忽。地。氷。解。せ。り。あ。う。も。道。徳。へ。又。何。ふ。の。故。小。仁。義。礼。智。云。云。の
や。つ。八。ヶ。の。文。字。見。え。り。八。ヶ。の。玉。を。索。め。り。又。何。ふ。の。故。あ。り。身。の。痣。牡丹。似。る。ゆ。え。
竊。小。愛。顧。せ。り。目。と。云。ふ。う。ち。う。ろ。う。ろ。と。辞。齊。一。尋。ば。大。い。を。く。ち。白。虎。あ。り
あ。り。の。う。ち。理。り。と。云。ふ。緑。故。を。告。ん。と。の。呼。び。は。如。し。と。彼。八。房。の。犬。の。伏。姫。と。始
終。の。う。ち。役。行。者。の。示。現。感。應。并。白。玉。の。数。珠。の。う。ち。出。家。行。脚。と。二十。二。年
毎。年。の。九。事。の。顛。末。を。安。西。景。連。が。滅。亡。の。條。より。伏。姫。自。殺。の。條。まで。辞。短。く
解。示。し。と。その。あ。り。伏。姫。の。賢。み。と。心。操。の。雄。々。と。孝。め。る。慈。悲。の。あ。り。才

雨ありと枯る稿へ束穂をのつふもき得勝るべし。その中妙真の教ひ未だ
 涙を拭く。小文吾と共侶小入は肩ホを慰めつ。耳の辺は声立てる房八よ。や
 か沼菌は大ハを魁主しく。如此の奇特あり。こゝろん多と稚児を引もてこんせ
 玉をんせ。やよ喃と叫活る房八や。く点頭。原来こが子に宿世あり。渠を
 坐艸の上よりえく左の巻を機ひに弱者く。賤しめく大ハといふ渾名を肩せ
 らくもか。やよ親まへす。勝るを渠その玉やと恋あれば大士と推う。い
 ざん死。そまを冥土の饑別小入る親。果報も母もさす。そのわゆるめ通
 うれ子を生産せんと誓う。と沼菌ハ目をひく。ある教りや。とるるふ末期の二句
 果敢るも玉の緒終小結より。喃いと惜しや。と妙真をむる。死骸よりみみけ
 ぬえせ。とぬし。いとぬ人の数小入る親。と志をく大ハ。母法。喃乳汁賜てを
 携るを。小文吾ハ。そそぬめ。と後。と抱れ。留めても。とぬぬ。涙ハ。ぬれ

哀別離苦顔を背けく。法然とて。當下尸山の妙真。頭を擡得。うちかゝる。大
 等ふ。ち對ひ孫大八が。すれ。ち。ふ。九の巻を。機。う。胎内。ある。かの玉を。握。て。こ。る
 故ゆ。く。彼伏姫。う。と。や。んの。菩提を。吊。せ。あ。あ。あ。道徳の。ち。の。自。觸。ま。て。う。ち
 幾。く。べ。た。為。あ。ま。れ。と。曉。て。も。る。何。怪。く。待。て。就。て。この孫を。大八と。呼。ぶ。う。人。の
 負。せ。渾。名。め。く。片輪車。と。い。ふ。進。え。實。の。真。平。と。名。け。け。り。房。八。が。親。の。字。と。真。兵衛。と
 祖。父。が。如。此。命。し。氏。ハ。則。犬。江。ゆ。く。家。跡。も。犬
 江。屋。と。呼。び。け。り。今。さ。う。思。へ。よ。し。も。亦。犬。と。い。ふ。字。を。冠。せ。い。も。不。思。義。の。因。縁
 あり。願。ふ。今。も。孫。の。名。を。犬。江。真。平。と。呼。ぶ。ひ。く。物。の。數。め。足。を。と。も。大。土。の
 後。小。居。る。の。や。今日。を。関。る。親。へ。孝。養。す。且。ふ。た。た。と。け。と。と。涙。を。か。ふ。か。た。口
 説。べ。大。の。や。う。榮。念。と。う。ち。笑。答。哉。と。祖。母。の。情。願。氏。も。家。跡。も。主。を。識。る。犬。江
 子。ハ。亦。奇。え。且。その。親。房。八。の。身。を。殺。と。仁。を。あ。り。よ。と。そ。の。子。ハ。仁。の。字。の。見。れ。こ。る



文五兵衛
夜
水中の光を
撈

文五兵衛

夏中をわたりて現八房の犬と轉倒をる。房八沼蘭の鮮血を流す。や男女の
血を流す。難瘡のまじりて愈へ。又彼血を盛。貝へ修験の法を
あり。役行者の利生もあふ。左も右もその夫婦。再生の恩入。惜むべ。惜む
べ。その力大士の隊のゆへ。その子小護の故を。世を。せらる。今ハ
彼梅子。八ヶの文字を消失。とも八房の梅と房八夫妻と亦是名詮自性乃
義あり。核と夫婦が基。伏と末世の功德を標。さればその子大八の親兵衛ハ
骨肉の弟小八。後年里見殿小仕。俱ハ戰場に臨。其多。其の
子と實。敵と盡。功を譲。尚その戦ハ難義。及。近。敵を殺。拂。或。前
面。立。塞。その死。代。今。受。再生の恩。父兄。父。も。山林。今。中
途。傾。賊。何。物。非。友。を。心。誠。二。聲。の。隔。なき
胸。を。わ。け。懷。囊。小。納。梅。の。核。を。撈。里。中。包。紙。を。推。披。え。房。八。を。視。

け。其。この梅の核。後。小。件の夫婦。墓。時。れ。芽。生。八。株。の。弱。木。年。を
歴。其。実。八。房。小。生。一。人。入。之。件の梅。房。八。の。梅。と。稱。又。八。房。の。梅。と。稱。間。話
休。題。房。八。大。さ。ぬ。信。乃。が。誠。心。の。飲。め。苦。惱。を。心。ひ。梅。の。核。を。え。ん。が
え。つ。膝。折。起。叶。賢。ち。う。大。塚。博。愛。言。下。小。顯。其。多。過。世。あ。う。
大。士。こ。う。成。る。ご。とも。金。碗。殿。の。子。息。ふ。と。せ。一。大。道。徳。小。顯。近。祖。父。が
罪。を。宥。ら。い。と。う。う。年。來。の。夙。願。成。就。せ。の。と。う。も。齡。甫。で。四。歳。る。大。八
の。真。平。ハ。親。小。代。の。義。を。取。親。兵。衛。と。字。せ。仁。と。名。つ。け。ら。る。意。外。乃
大。幸。今。般。の。飲。ぶ。酒。飲。亦。あ。ふ。あ。る。き。つ。と。子。ハ。大。士。乃。且。その。小。父。ハ
大。田。あ。る。後。見。せ。せ。く。大。塚。師。頼。此。彼。の。愛。顧。ふ。う。二。親
有。と。何。ぞ。憂。ん。面。影。の。怪。れ。ま。く。大。塚。師。小。似。る。も。是。亦。の。因果。あ。れ。
な。ん。加。以。其。夫。婦。も。土。象。る。八。房。の。実。生。の。梅。り。墳。墓。の。標。と。も。せ。ら。る。

よし員外の犬士ふねの望足りくいと答る間ふあつたの惜む別を促し良し
時ふ鶏の声立ちて天へ明るんとぞ乱鳴く房八耳を傾くそや鶏明を東を
あつたん黙死ふたりて時後さるがう死も遂ふ空事をへ阿舅ふ分錯あむ
そくと焦燥ゆそ小丈吾へ今更ふ推辞づるるねども猛死覚期ふのを
足も進まむ巻も撓も心をあつたるう。當下蜚崎照文へ房八小丈吾は
うと對ひ人よく言を聴け促きとも惜むも生死を天理自然ふく亦
ゆふともはるるむううが父十郎は伏姫富山ふりめひ日かん傳を命せむ
直は汗馬ふ鞭うもく。姫うを追なり。彼山河のふた嶺をうさんとする程人馬
俱ふ推流さるる其れふ命と損くも。あつたん果度君命を稟なり。大納閑の
八州は賢良武勇の鳥傑を募んと欲する程は、大法師小理會のその引接ふ修
よふく伏姫上のかん子ふ答る四犬士ふ相見え賢を招くの本意ふ攝了。さむ
山林房八郎へその義その勇犬士ふあつた非命めく今終るとも且里見の家臣さ
べうが君公の微書すふあむ。拜受く夜堂は就るその子親兵衛幼少くとも
君臣二世の恩義深きも身後の栄子孫の為ふも亦うとやと鷹場のころを
速く小四方る一通を取あげて房八額ふ翳させ又小丈吾をえうと大田生
この意をほる。伏房八郎へけううと里見屋の家臣さるるその力必死乃
深瘡を負ぬかま忠勅ふ餘日。只その僚友犬塚信乃が厄代り死を救る。
あえ。主君の為あつた等し。是莫大の忠あり義を救ひて死深瘡と知る。い
苦痛をまはん分錯も亦則隱そと將大と武士魂ふ小丈吾有理とあひうと腋
刀引提身と起は房八先介とうち咲く鄙言よのかへ武士世へ唯まけ蜚崎
ぬ。百意思謝さる餘あむ。さむへ賤れ船長の子ふ生とも幸あつて武門ふ入
その死をゆるさる阿舅の刃を芳せんい分錯とと堂を合う項を伸う。

山林房八郎へその義その勇犬士ふあつた非命めく今終るとも且里見の家臣さ
べうが君公の微書すふあむ。拜受く夜堂は就るその子親兵衛幼少くとも
君臣二世の恩義深きも身後の栄子孫の為ふも亦うとやと鷹場のころを
速く小四方る一通を取あげて房八額ふ翳させ又小丈吾をえうと大田生
この意をほる。伏房八郎へけううと里見屋の家臣さるるその力必死乃
深瘡を負ぬかま忠勅ふ餘日。只その僚友犬塚信乃が厄代り死を救る。
あえ。主君の為あつた等し。是莫大の忠あり義を救ひて死深瘡と知る。い
苦痛をまはん分錯も亦則隱そと將大と武士魂ふ小丈吾有理とあひうと腋
刀引提身と起は房八先介とうち咲く鄙言よのかへ武士世へ唯まけ蜚崎
ぬ。百意思謝さる餘あむ。さむへ賤れ船長の子ふ生とも幸あつて武門ふ入
その死をゆるさる阿舅の刃を芳せんい分錯とと堂を合う項を伸う。



現八勇力
三間者を
塵ふす



とく 莊官許訴く甲夜の怨を復さべく賞錢の品を領つべし。さう走れと密
 語。歩を竊く共侶ふえんううる後より。某矢庭に跳菟く一賊が竹上撞
 觸。引戻しく梓胡せられ残る而賊に駭怒く。おんと巻を肉を下で拂く
 筋斗らせ。起んうう。初の一賊を又撥觸く裡面へ投入する。あつてまふ
 組んとせし。而賊を左右に扱く一人も漏さむ。かくの如しと辞せうく告ぐ
 小文吾ゆめく多く泣びこの三個の癖者の名を云ふと喚する。妻もる子も
 ろる奴原へは相撲を好めども心ようふぬめ共る見が近属のせははざりし。
 甲夜ふ此奴未推菟来く云云のる。あまうふ。その死心を以てん為欲再び潜近
 つれけん緯。あまうふ。あまうふ。危うし。和敏彼知ふ微くせ。遂に大事を恨みてん。
 密議をせし。奴原あれ。命は既にあまの火虫の口より死は就く。の。自心緒絶
 くと禍の根もあまうふ。との。小現八の而敵を膝に引著。壓へ。俛く。項骨屈く。

血を流し、死にけり。かゝ
 現は、孟六均太、鹹西郎、ホガ死骸を片隅に推累と、物うち被さく掩ひて、そ
 信乃、病著速、本復の状、びを述べ、小文吾、苦心を勞ひ引き、大照文
 又、對面し、且妙、眞を慰め、山林夫婦、義死を嘆賞し、その子、大八の親兵
 衛が、犬士たるを視し、當下、小文吾に現は、ふいふ。犬飼生の外、ふ立て、繚
 の、顛末を、傳へ、といふ、今さうさう、告るも要る。既ふ、之、天へ明ぬらん、ふ
 猶豫、其、彼、帆、大、夫、未、夥、兵、を、お、く、必、ま、あ、下、縦、實、首、を、り、く、欺、は、る、と、を
 さ、ふ、ふ、ふ、不、便、と、い、ふ、首、級、を、齎、し、く、莊、官、許、越、は、て、親、を、救、ふ、か、へ、
 來、て、ん、門、を、出、ま、ふ、く、思、ゆ、る、橋、の、ほ、と、ふ、繫、る、か、く、家、の、釣、舟、を、り、水、陸、と、も、ふ
 警、固、の、夥、兵、未、釋、ま、る、を、見、定、め、く、房、八、沼、藪、が、亡、骸、を、さ、え、人、々、を、舟、に、集
 一、く、潛、中、ふ、市、川、を、り、山、林、が、宿、所、ま、く、退、れ、又、和、敷、の、前、ふ、ま、の、地、ふ、ま、く、さ、く、

大々々業内なるべし。因るにさうくうち任じまはるぬめと密語ハ現ハゆめさうち点
頭そこの事心なるといふ大塚生と相譚とさかもさだん天ハ既ハ明ハれず猶も
かう暗き今朝の如く霽立すめく咫尺の間も別なり。さまた鳥の声ぞおせざる
る。巳の比及をよりせばこの霽決りて霽へむ皇天后土吾黨を祐たまふぞ
わんざんややなみ違くとも緯の妨あらずといふ當下、大ハ照文を見えりと既ハ
四大士ハ小聚會り。御旋を傳へるやといふ小照文さるゆき信乃現ハ小文吾よに
うち對ひ嚮來も演説せしむ。おのくハ大なるね里見殿又由緒あり。かん黒印を
受納め主従の義を固めよ。相伴ゆく安房へかゝらんかん兼父論るべしと安
えあごとて徵書と人別小遞与ふけむ信乃亦ハ謹く拜受しよいとを照文返し
のち某少幸ハ小尊藩小宿縁あり壁戸後ハ將軍まゝ管領まゝと徴させあら
とも他禄を受べぬゆめゆめさうとも今俺們五人の外ハ又三大士わづれぬいま

その人小遭と云ふその二士のありやうや目今定ふつひとけとも額藏の壯助の既に
同列の武士に彼人ひうこの帝に缺るをのぞかせん彼大川壯助は故伊豆の北條の莊官
なり大川衛二が獨子とその母親は蛸崎の先考とや見えう一郎の後弟と云ふ
寛正六年の秋九月その父衛二横死し妻子は追放せしむけりこの年壯助六七
歳乳名を莊之助とせり母親へ幸しく租児を携りて往方へ水長島安房小
親族へ蛸崎のそ其知とむる心あてふその冬の比とよ武藏まぐさめつと云ふ大塚
の里のいゝ母親俄頃ふきようぬきあり壯之助は土地の莊官墓穴が小堀にせし
れ額藏と名つくと今もちる彼家あり身へ村落小成長れとも武藝を嗜て
謀慮あり考めく且信義を重む賣小は死の豪傑に餘人へあつて其末を
彼莊助と俱るや官途に進まば是不義に思意の趣々の如し賢察せられ
あひあつんと推辭バ小文吾現へも許齊一亦いふや其末が願ふ所も大塚と相

その祖母妙真を俱いく多親兵衛既小安房はあま自餘の武士を招きも
竟おのれふ参聚まゐりつとづべし。貧道も下さへぶ故郷こけりへ還かへりて君の見系けんざんよ入いる願ねがひ
々ぬあなねどもむう失うせは八顆の玉のまぐ全く取とりてをいふべせんかれ
満願の時至いたらん日ふ七武士を伴ともふ見系けんざんをどくおふう。よまそその徴書ハ
野僧且やそう預あづかる大塚大田大飼也且市川まぐ退あとれそや大塚の里に赴おもむけ
竊ひそふ又の執とらを仕助小告しすけるをよろめ金道かねだうへ山林丈婦さんりんぢうふの為追薦おひせんの續經
を後彼知のちうこへ邁きくべきこの茂小後もちのちひ更あらたう。と父ちち照丈太小致ていせい別わふ四通乃
徴書をとうき前まえの二通とせよ、大由おほゆ應おうとけむ當下妙真ハ、大照文未たいしょうぶんみガ
ほろ近ちかく親兵衛を果はりてさていひけるや。かゝりの稚児わかごをもあく安房へ
徴する。あう死しなきひ小物数せうぶつずある推辞いしようも小物数せうぶつずある親兵
衛えいふひ先さきぞうくわゆるべ死しや。退あとくと進すすむとも人々と共侶どうりふと宣のたまふもん

衣の両袖は羅離と列衣より、房へ首を引よめり。包めども、又思く
妙真の色も、袖の両齋間の絶く、人小被せり。後の片身衣と、やこの世の別
ぞ。知るも、草衣推見ハト、何れへ、萬も吾侪も、俱めと、眞縁を、信ハハ、
引放の糸の、のりれの苦、あゝ、歎けり。煩悩の大飼、目を、あや、齊悲、
あやける。かく、小文吾の、腋、刀、合、腰、小、跨、首、級、を、右、小、極、止、大、照、文、小、別、を、
告、信、乃、現、ハ、後、の、の、鹹、四、郎、あ、死、ハ、江、の、洲、へ、と、密、す、謀、ハ、あ、く、妙、真、
慰、め、つ、又、將、大、の、親、兵、衛、が、玉、の、る、さ、小、堪、ぬ、歎、け、小、懷、惜、く、生、ハ、あ、く、心、を、つ、け、
才、と、起、せ、雲、時、目、送、つ、る、人、を、上、く、迹、小、横、つ、た、あ、れ、夫、婦、の、亡、骸、の、夫、ハ、舊、の、
僕、る、も、軀、と、首、の、死、別、と、歎、け、の、飛、勢、と、息、也、露、小、胸、も、曇、く、尚、暗、死、門、の、戸、を、卒、と、
推、あ、く、翅、を、を、れ、鳥、自、物、朝、立、遠、く、お、ふ、り、

里見八犬傳 第四輯 卷之四 終



十九